

## 佳作

### 言葉エネルギー

宮城県塩竈市立第二中学校

3年 齋藤 柚希

電気自動車は電気エネルギー、水素自動車は水素エネルギーを動力に前へと進みます。このように自動車で私を表現するとしたら、私は『言葉エネルギー』で夢への道を進んでいます。そう言えるでしょう。

私の将来の夢は教師になることです。きっかけは、小学生の頃に行っていた学童保育での出来事です。そこでは、夏休みなどの長期休み中に高学年の人が、先生の代わりに低学年の子に宿題などの分からないところを教える、という制度がありました。あるとき、私が教え終わると「教えてくれてありがとう」と言ってくれた子がいました。その言葉でなんだか心が温かくなり、ほっこりしていると「ここ教えて」と、他に手が空いている人が近くにいるにもかかわらず私を指名してくれた子がいました。教えたあと「何で私だったの?」と聞いてみると「前に教えてくれたときに分かりやすかったから!」と言ってくれました。この二つの言葉は、苦手意識があり嫌いだった「人に教える」という行為に喜びを感じさせ、少しの興味を持たせてくれました。

その日は家に帰ったあとも、また「ありがとう」と言ってもらうには、また「分かりやすい」と思ってもらうには、どうしたら良いのかと考え、ネットで「教え方がうまい人の特徴」を調べてみることにしました。すると、相手が理解できたかを見抜く、相手のリズムに合わせて教える、おおまかな内容から話す、実際にやってみせるなど、さまざまなことが書いてありました。それらを読んでいると、ある共通点があることに気がつきました。それは「相手の目線に立ち、自分本位にならない」このことが土台となって考えられていることです。私はこのことを知った次の日からは、相手のことを考えながら教えることができるよう心がけました。自分が初めてそれを学んだ時を思い出し、自分はどの教わったのか、どんな点が分かりづらかったのかなどを考え参考にしました。そして、できるだけ相手の目線から問題を考え教えられるように努力すると、再び「教えるの上手だね」と言ってもらうことができ、心の中で「やった!」と喜びの声を上げ、ガッツポーズをしました。このことから私は人に教える仕事がしたいと強く思うようになったのです。

中学生になり、進路について学習する時間の中で、自分がなりたい職業について調べたときがありました。私は早速、人に教える仕事と考え、最も身近な「教師」という職業を調べてみることにしました。そこで、自分が想像する以

上の仕事量や大変さなどがあると知り、「今、目の前にいる先生はそれらを全て乗り越え、私たちの前に立っているんだ」そう思うようになりました。すると、担任の先生がとてもかっこよく見え、憧れの気持ちが湧き上がってきて、私の中に教師になりたいという夢が生まれました。その夢が生まれてからは「きちんと勉強出来ないとダメだ」と思い、とても苦手で半分諦めかけていた英語の授業もしっかりと受けて参考書も買い、今まで諦めていた部分を取り戻せるように頑張りました。

しかし、その夢を諦めそうになったこともあります。私が所属している吹奏楽部では3年生が引退し、2年生が主体となり出場するコンクールが12月にありました。それに向けた練習中、私は自分のことで手いっぱいになってしまい、合奏中であろうと自分の楽譜をかじりつくように見ていたため、先生が後輩を指導しているところをあまり見ていませんでした。すると、後輩が指摘されているところを私に問われたとき、すぐには答えることができず、少し戸惑ってしまいました。すると先生に「後輩を指導して勝利に導こうという意欲が感じられない」と言われてしまいました。この言葉は私の胸に深く刺さり、「私に教師は向いていないのではないか」としばらくの間悩み続けていました。そんなとき、指導していた後輩から「ありがとうございます」と言われ、ハッとしました。「こんなことで夢を諦めたらあの日憧れた先生のようにはなれない。これをバネに成長しなければならぬ」と思い、悩み事から立ち直り、また夢を見ることができました。

私は、「ありがとう」「分かりやすかった」このたった二つの言葉で夢を見つけ、その夢をかなえるための活力が生まれました。このように言葉には人を突き動かす力『言葉エネルギー』があると思います。私は、

「ありがとう」

この言葉に含まれている言葉エネルギーの力を使い、勉強や学校行事に全力で取り組み、たとえ、夢への道がでこぼこで障害物だらけだったとしても進んでいきたいと思っています。